



光受寺通信

H.23・10月1日

発行者 光受寺

今年の秋は、一気に訪れた。急激な気温の変化は、老体にはとても辛い。年中腰痛で苦しむ私には、これからの季節は特に厳しく、腰を冷やした朝などは起き上がることも辛い。しかしこの体に依る以外に、私の一日は始まらないのだ。人は自分の体が、自分の意志どおりに動かなくなった時、初めて当たり前の健康のありがたさを感じる。まさに人間の愚かさだ。「仏法は若いうちにたしなめ」とは、どこかでうなずける言葉ではないか。

花しょうぶ

～出会いと別れ～



祖父江
J.M

主人は古希も過ぎて早二年。心身ともにゆとりのできた今、ふと自分の人生を振り返ってみると、後悔の連続だと、主人は言います。両親に親孝行できなかったこと、子供たちの世話も私に任せっきりだったこと、自分の商売の偶の失敗等々。それらを懺悔して、毎日の日課として実行していることは、両親の遺影に手を合わせ、仏壇でお経をあげ、お墓参りをし、地元の白鬚神社にも参拝すること。

誰にだって後悔はあるもの。でもあなたの努力で家族が何とかできたじゃないそれで十分と私。主人はご住職さまと一緒に正信偈を誦むことが出来るので、毎月の月命日を心待ちにしています。私はご先祖へのお供えの花作りを専念しています。



人生の節目談義

堤町 FM

私が花しょうぶの切り花を差し上げたのが、彼女との出会いでした。きれいな花しょうぶやね。私苗が欲しいわ。「いつでもあげるよ」。そんなやり取りのあった次の日、さっそく彼女は「ビニール袋を持って来て。いろいろな花の苗を、来年はどんな花が咲くのか楽しみ」と言いがら、帰って行った。

同朋会ではいつも元気に出席し、報恩講ではいつも一緒にお参りし、向かい合ってお齋をいただくことが恒例だった。そんなお付き合いがしばらくは続いていたが、同朋会のあったある日、腰が痛いので病院に通っているわと彼女。私は重いものを持ちたりのりで、疲れたのやないかと自然に答えた。

しかし、しばらくして彼女が入院したことを知った。本人はとても元気そうで、心配はなさそうだったが、それでも数か月の入院生活を送り退院をした。私はさっそくバラの花とブライジオオリスの切り花を持って、駆け付けた。彼女はありがとう、ありがとう何度も言いつつ、元気な笑顔で言ってくれた。

それからまたしばらくお会いできなくなり、花しょうぶを持って様子を伺いながらおじやましたら、応接間から外を眺めながらいた彼女が、「こんな生活になってしまった」としみじみつぶやいた。私は玄関を上がり、持ってきた花を花瓶にさし、テーブルの上におけたら、花しょうぶを一輪一輪おいておいて眺めながら、手ではななっていた。そして、彼女はちよひとみしてさういふことを言った。頂いたしよひの花、知らぬ間に草で覆われて枯れてしまった。そして、その時彼女は私の手をしっかりと握って、本堂改修工事済んだら、報恩講参るわと、いふ言った。それから再び入院し、二度と彼女の笑顔に会えないことはなかった。彼女は九月二十一日日曜となった。Kさん一所懸命がんばったね。まわりのことになった本堂でKさんを偲んで、お勤めします。

「う、う、う、いいのちがあなたを生きてくれた」。右手にペン、左手にハンカチをもって加代美さんとの思い出を綴る。

本堂改修工事が始まって

光受寺改修工事については、総代会で何度も協議され、二十二年度の門信徒総会では快くご賛同をいただき、今のところは工事もほぼ順調に進んでいるようです。

本年は多くの災害も発生し、大変厳しい年になりましたが、多大なご寄進をいただき、おかげさまで早く着工ができました。二十三年度の特別永代経、報恩講が滞りなくできそうですので、楽しみにしております。

工事業者の皆さんも良い人ばかりで、暑い中を頑張って、良い仕事をしてくださっています。ご門徒の皆様もぜひ一度工事の進み具合と、出来栄えを見ていただけたらと思っています。

—総代より

本堂改修状況 その5

こんな状態なので台風大
変でした。



客殿の天井板の
張替と部屋を広げた
部分の様子です。
中央が床柱です。
いよいよ内外装工事
が始まりそうです。
改装工事は新築に比
べて手間がかかって大
変みたいです。



縁が張られました。
北側廊下は、張替はしない
はずなのに、大工の棟梁が
よく目につくところだから
と思われたのか、勝手にサー
ビスで張り替えたみたいで
す。棟梁は何も言わないけれ
ど、監督に聞いたら、そう言っ
てました。
南側は、人目につかないので
正面にあった古い板を使いま
した。
とてもうれしいサービスでし
た。

裏廊下と上部
は二階で、物入
となります。



インターネットを生かそう

M・Mさん

八月から光受寺にも待望のインターネットが開設されました。

簡潔で洗練されたデザインのページ作成で、とてもさわやかな感じのホームページができました。

毎月発行されて、門徒の交流の場になっている「光受寺通信」はホームページでも見られるようになりました。

これから先、IT時代にふさわしくインターネットが、門徒相互の交流や寺とのふれあい、真宗教義の正しい理解など、信仰の深めと広がり大きな役目を果たせるよう、積極的に生かされていくことを願っています。

ご住職さんとのメール交流、法朋ブログでのコメントなど、こまめにつながりを密に行きましよう。

ホームページ

koujyuj.com

メール

sibama.kunimori@grape.plala.or.jp